

■九州朝日放送番組審議会議事概要（2月分）

第600回	九州朝日放送番組審議会 議事概要
開催年月日	平成30年2月19日（月） 午後3時30分～4時45分
開催場所	九州朝日放送 本社役員会議室
出席者	<p>委員総数 8名 出席委員数 7名</p> <p>（出席委員） 古宮 洋二 委員長 井手 雅春 委員 戸田 康一郎 委員 守田 有理子 委員 鶴 利絵 委員 池田 勝 委員 安恒 万記 委員</p> <p>（放送事業者側出席者名） 代表取締役社長 和氣 靖 常務取締役 二木 清彦 取締役編成制作局長 清水 透 ラジオ局長 園田 哲也 報道局長 臼井 賢一郎 ラジオ局編成業務部 部長 木附 ゆかり ラジオ局編成業務部 担当部長 佐藤 雅昭 ケービーシーメディア ラジオ部 ディレクター 米崎 竜司</p> <p>番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長 奥園 徹 番組審議会事務局員（視聴者・広報室） 松永 俊郎</p>
議題	<p>議題 ラジオ番組「夕方じゃんじゃん」 放送日：2017年12月12日（火）午後4時00～6時45分</p> <p>報告事項 1. 平成30年2月・3月 ラジオ・テレビ番組編成状況 2. 平成30年1月 視聴者・聴取者応答状況 3. 次回 平成30年3月度（第601回）審議会日程 3月19日（月）午後3時30分～開催</p> <p><課題> テレビ番組「福岡おかえり旅行社」 放送日時：2017年12月15日（金）23：15～24：15</p> <p>4. その他</p>
議事の概要	<p>◎委員の意見（概要）</p> <p>委員からは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○番組はマシガントークの中島浩二さんと豪快な笑いが印象的なコガ☆アキさんの掛け合いで進行し、ニュースやスポーツなど情報量が豊富であるにもかかわらず、耳にスツと入ってくるようなテンポの良さがあった。仕事や家事をしながらラジオを聞くという人も楽しく聞ける番組だった。 ○ラジオはパーソナリティのキャラクターや力量に負うところが大きいと思うが、中島浩二さんの軽快なしゃべりとリスナーやゲストなど相手の話を聞き出す力はさすがだと思った。 ○お菓子の紹介をする場面では、中島浩二さんがどんなお菓子が入っているのかを一気に紹介していたが、映像はなくてもラジオを聞いている人がどれだけたくさんのお菓子が入っているのか想像できる喋りで、プロの技術に感心した。 ○福井県鯖江市の越前塗の職人さんという方のメッセージが紹介されていた。福井県からもメッセージが寄せられるほど、ラジオの媒体価値は想像以上に大きいのだなと思った。 ○番組の放送時間帯が夕方のテレビニュース番組の放送前というもあり、実際に「KBCニュースピア」の太田キャスターがラジオスタジオを訪れて注目のニュースなどを紹介する場面があったが、ラ・テ兼営局のKBCならではの試みではないかと興味深く拝聴した。リスナーの中にはラジオで注目のニュースをチェックし、実際にテレビ番組を見る人もいるのではないかと想像した。 <p>などの評価を頂きました。</p> <p>また、気になる点や望むこととして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「夕方じゃんじゃんニュース」のコーナーではお得な情報や雑談等で役立つ小ネタもあったが、一方でラインナップされた話題のうちタイトルは連呼されるものの、結局番組内でその内容の説明がない項目もあり、若干の消化不良感を感じた。 ○放送時間を考えるとリスナーの年齢層は比較的高いと思うが、今回はあまり馴染みのない話題も含まれていたため、世代ギャップを感じた。リスナーにとって馴染みの薄い言葉については少し丁寧に説明をしてほしいのではないかと考えた。 ○プレゼントのお菓子の紹介について、大勢の応募が寄せられたことに加え商品名を何度も紹介されるシーンがあったが、少しくどいように感じた。番組を途中から聞くリスナーはまだしも、最初から聞いているリスナーにとってはいかになものか感じた。 <p>などの批評や提言を頂きました。</p> <p>これらに対して、担当者から、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主なターゲット層としては、かつて深夜にラジオを聞いていた方々や30代から50代のドライバー、主婦をイメージしているが、忙しい現代人にとって「ながら聴取」は非常に効率的でもあり、楽しいトークや盛りだくさんの情報、さらには幅広い音楽を提供する方法としては有効なのではないかと考えている。これまでラジオをあまり聞けなかった方々にも楽しんでいただける番組作りを心がけている。 ○2時間半以上の番組を飽きずに聞いていただくための工夫として意識しているのは「テンポ」。時間を忘れ聞いていただけるような番組づくりのためのテンポを意識している。かつて、先輩ディレクターから「人はトークだけを聞いて集中できるのは8分が限界」と指導された。8分のトークの後に曲やCM、という構成になるように意識している。 ○「Radiko」というアプリを利用すれば全国各地からでもKBCラジオを聞くことができる。少しずつリスナーが増えてきているのかなという印象を受けている。 ○中島浩二さんはリスナーへの影響力はもちろんだが、20～30代の若手の制作スタッフにも厚く指導していただいており、次の世代にラジオ作りの面白さを伝えていただいていると捉えている。 <p>などの説明をしました。</p>